データを読むのは
学問の基本！

優秀答案　６名発表です。

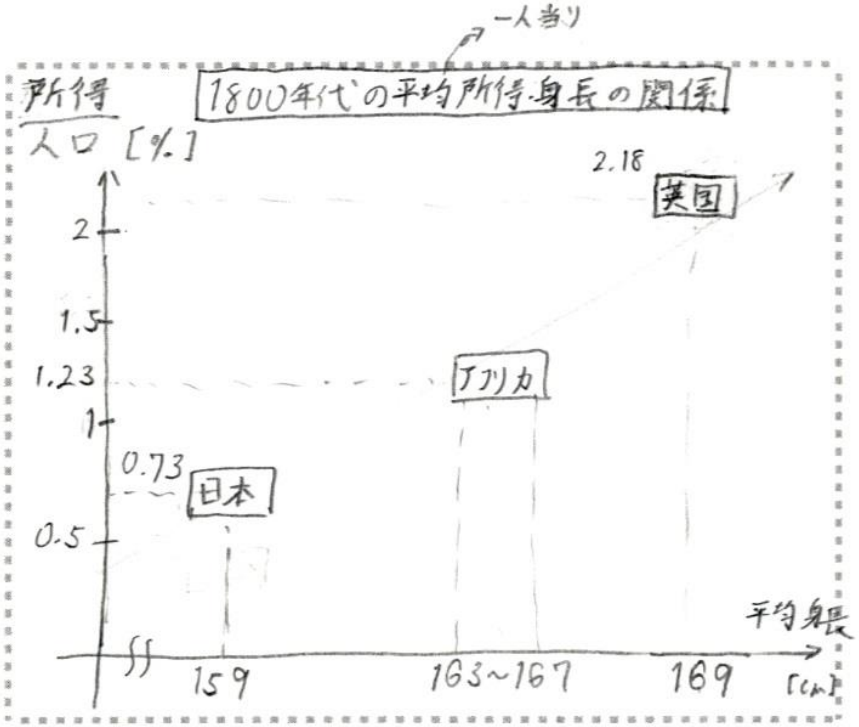
問２

問１で解説した以外の２つのデータを選び、
２つを関連づけて、
何らかの推論を組み立ててください。

身長と所得の相関を導出　Y.H.さん

３と８

平均所得が上がれば、基本的にいいもの、肉を食べることができる。(②からもいえる)。すると、平均身長が伸びる。そのことを如実に表わしたのが右記のグラフである。③のデータが偏っていた為データが少ないが、かなり線型に近いグラフを描いた。

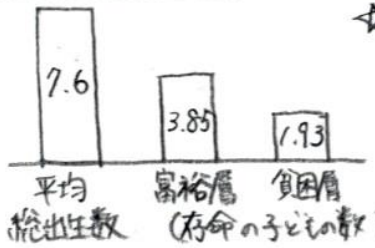


子どもを産む年齢に着目　H.O.さん

４と７

平均して7.6人出産しているのにもかかわらず存命の子供の数が半分以下なので、富裕層でも亡くなる子供が多い。平均余命近くになっても出生率がそれほど下がらないので子どもを産むのが大事だと考えられていたのでは？

英国に着目!!（産業化以前）



☆1人あたりの出生数と存命の子供の数を比較

20-24	25-29	30-34	35-39	40-44
0.43	0.39	0.32	0.24	0.15

33 貧困層　39 富裕層

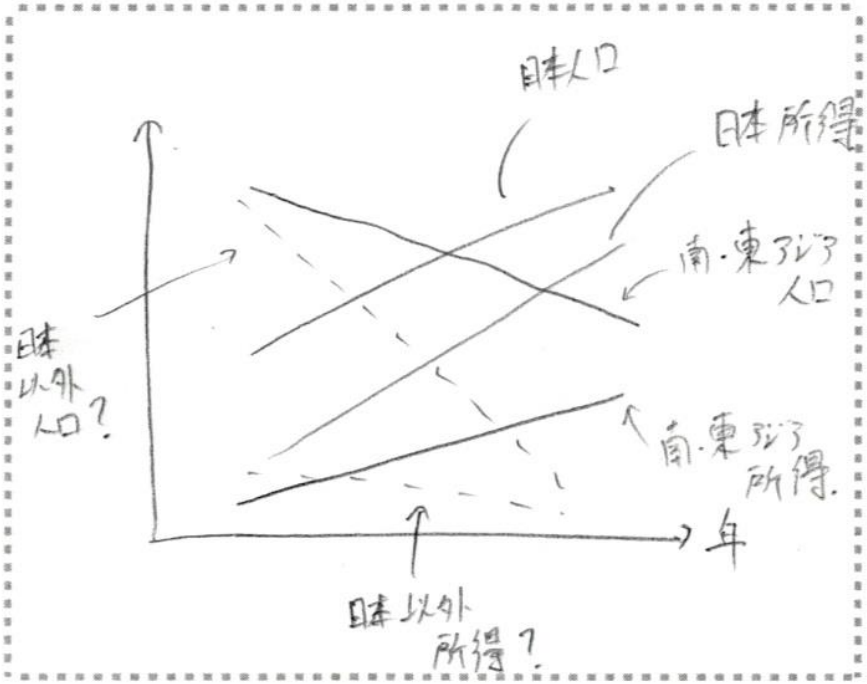
☆平均余命と出生率を比較

⇦平均余命

日本以外のアジアを推定　T.H.さん

8と10

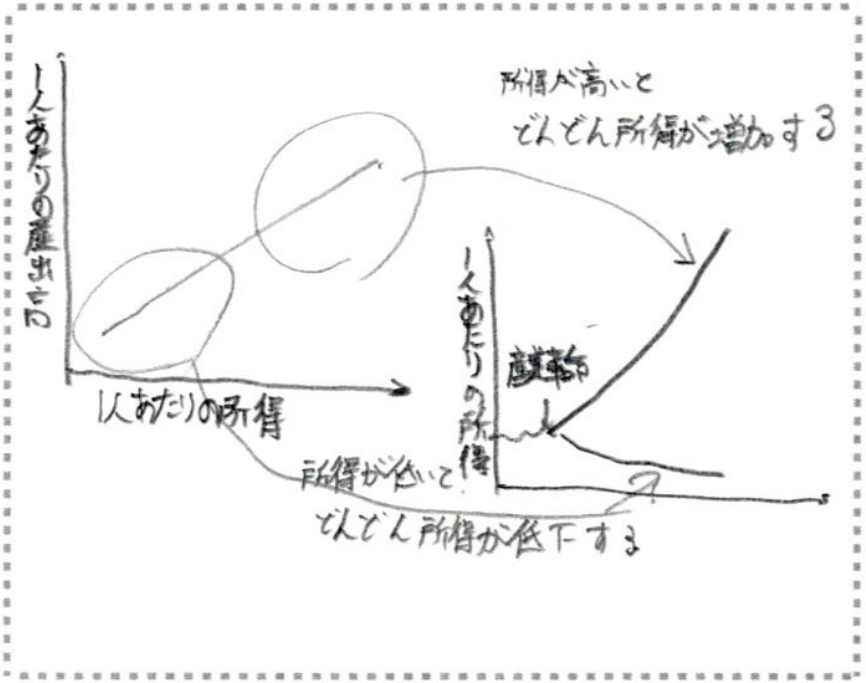
⑧のグラフでは、1913～2000年にかけて人口はへり、所得はふえてないが⑩のグラフにおいて日本の所得は増加し、また、実は日本の人口は大幅に増加している。つまり日本以外の多くの国では人口・所得が減っていることが推測され、国内での民間における貧富の差がなくなっても、国家間における貧富の差が大きくなっていると推測できる。



格差の再生産　M.I.さん

０と９

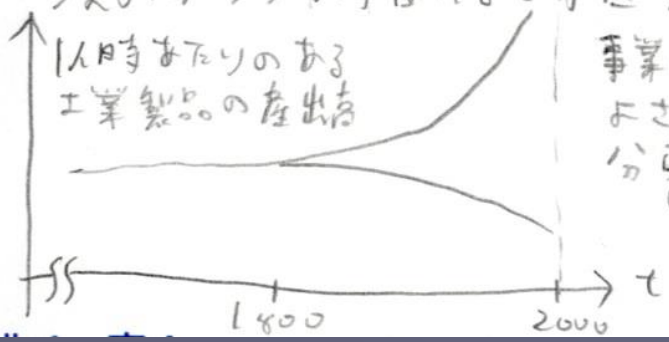
⓪から産業革命以後先進国と途上国の間で所得の格差が広がっていることがわかり、これは⑨より1人あたりの所得が低いほど1人あたりの産出高が低くなる悪循環が原因であると考えられる。



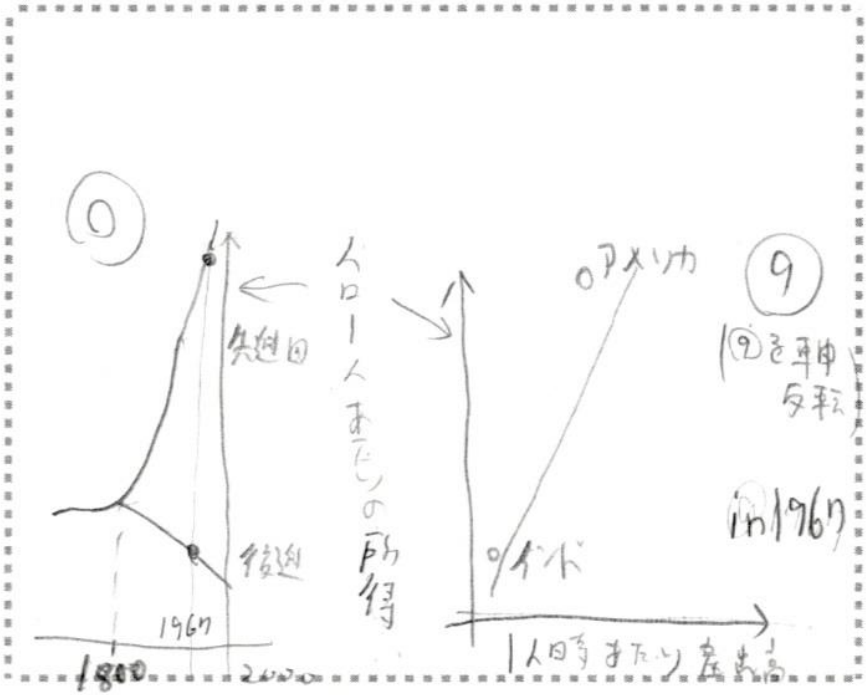
事業効率の大分岐　N.H.さん

０と９

人口1人あたりの所得は先進国が高く、後進国は低い。また、所得が高いほど産出高も高い。よって⓪、⑨のグラフを組み合わせて次のグラフが描けると推測。



事業の効率のよさにも、大いなる分岐が生じたと考える。



↑ポイントとなる数値等を図示する

人類の性（さが）　K.M.さん

６と８

6のデータから昔の社会では強者が弱者を押さえつけていたが、8のデータでは、6のようにして強者の割合が増えた国が弱い国を押さえつけていることが分かる。このことから、人類は程度が違うものとは争い、同程度のものとは組織化すると考えられる。

殺人経験者の子ども　非殺人経験者の子ども

6.99 ＞ 4.19

富裕な第世代と第世代の差　貧困な…

3.2 ＞ −11.2

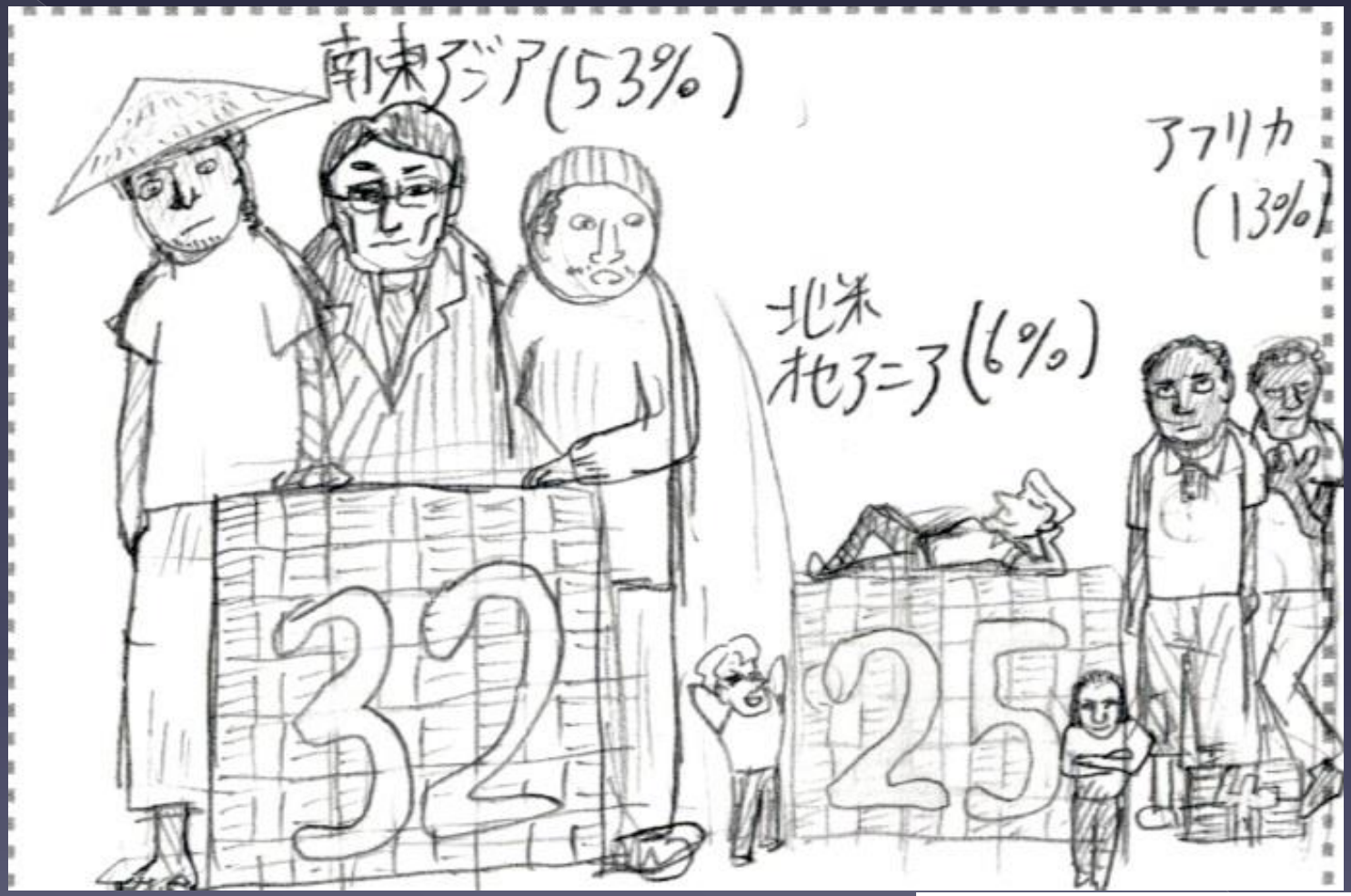
西ヨーロッパ　アフリカ

所得/人口の変化

24/11 ↓ 20/6

9/7 ↓ 13/4

特別コーナー　今週の画伯　S.N.さん



南東アジアは人口のわりに所得が少ない。
アフリカだと顕著。北米オセアニアは
人口%の4倍近い所得%をもらっている。
ズルいぞ 俺にくれ!!

5月7日の講義内容は
著作権保護コンテンツを含むため

OCW-i
のみに公開します。